



# 第1回 関西ライフサイエンス リーディングサイエンティストセミナー



本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方にご講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス関係者および一般の方々に、健康・健康産業に対するインスピレーションおよび産業化へのイメージーションを与えることを目的としています。このことは、産官学にわたる組織横断的なコミュニティを醸成し、産官学の対話を促進することにつながると期待されます。

本セミナーは、2~3か月に一度の頻度で開催し、全10回を予定しております。毎回、2名の講師の先生から、最先端の研究についてホットな話題を聞くことができ、講師の先生と直接お話しいただける場を提供します。

第1回目は、クローン病・潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の発症メカニズムと次世代医薬として期待される核酸医薬をテーマにとりあげます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：2014年9月30日(火) 15:00~18:00

会場：KMO カンファレンスルーム Room C-01 (グランフロント大阪 北館 タワーC 8階)

地図 → <http://www.kc-space.jp/accessmap/conference/towerc access.html#jump>

参加費：無料(交流会:1,000円)

主催：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、公益財団法人 都市活力研究所

後援：大阪医薬品協会

プログラム：

15:00~16:00 「炎症性腸疾患の発症機構の解析」

大阪大学大学院 医学系研究科・免疫制御学、免疫学フロンティア研究センター  
教授 竹田 潔

近年患者数が急増しているクローン病・潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患は、我々の遺伝的素因に腸内細菌叢や食事成分などの腸内環境の変化が相まって発症する疾患であり、そのためにその詳細な発症メカニズムが明らかになっていない難病である。私たちの研究室では、腸内細菌叢と腸管免疫系の相互作用の観点から、炎症性腸疾患の発症機構を解析してきている。本講演では、炎症性腸疾患の病態における、腸内細菌叢、腸管上皮、腸管免疫系の相互作用について、最新知見を紹介したい。

16:00~17:00 「核酸医薬開発の現状と将来展望」

大阪大学大学院 薬学研究科 教授 小比賀 聡

我々は1990年代より機能性人工核酸の開発研究に取り組んでおり、相補鎖RNAに対して配列特異的にかつ強固に結合する人工核酸の創成に成功してきた。またそれらを用いた応用研究として、人工オリゴヌクレオチドを用いた遺伝子発現制御、エキソスキッピングによるスプライシング制御、三重鎖核酸形成を基盤とするDNA検出、人工核酸アプタマーの創成等を推進している。本発表においては、我々の人工核酸研究の一端を紹介しながら最新の核酸医薬開発の現状や課題について概説するとともに、その将来展望についても議論したい。

17:00~18:00 交流会・名刺交換会

会場：公益財団法人都市活力研究所 セミナー室 (グランフロント大阪 北館 タワーC 7階)

申込先：公益財団法人都市活力研究所のWEBサイトからお申込みください。

URL：[http://www.urban-ii.or.jp/events/detail.php?event\\_id=87](http://www.urban-ii.or.jp/events/detail.php?event_id=87)

問合せ：NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議 事務局 電話：06-6459-6795 (魚谷、梅村、大嶋)  
公益財団法人都市活力研究所 電話：06-6359-1322 (味村)